

様式第3号（第11条関係）

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第2回吉川市市民参画審議会
開催日時	令和5年11月1日(水) 午前 9時30分から 午前 11時25分まで
開催場所	吉川市役所202会議室
出席者氏名	(敬称略) 坂野喜隆会長、松村勘由副会長、廣瀬正子委員、 金澤美智子委員、大手俊之委員、郭育子委員、木村ミツ委員、 米田清美委員、菅原丈寛委員
欠席者氏名	竹内寛委員
担当課職員職氏名	市民参加推進課 宗像浩課長、松井勉副主幹、岡庭侑香主任 子育て支援課 飯野耕太郎課長補佐 長寿支援課 山口剛介課長、野口英里子主任
会議次第 及び会議の 公開又は非公開の別	【第2回 審議会次第】 1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 第1号 令和5年度 第1回審議会にて選定した協働事業の 第三者評価について 第2号 令和5年度 市民参画手続の進捗状況について 4 閉会  【会議の公開又は非公開の別】 すべて公開
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	
傍聴者の数	2名
会議資料の名称	資料1 令和5年度 市民参画手続実施結果の一覧表 資料1-1 令和5年度 市民参画手続実施結果【1. 審議会】 資料1-2 令和5年度 市民参画手続実施結果【4. 地域ヒアリング】 資料2 令和5年度 市民参画手続実施予定の一覧表 資料3-1～3 吉川市協働事業評価シート（第三者評価対象分） 別紙 令和5年度 市民参画手続の進捗状況について
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	大手俊之委員、金澤美智子委員
その他の必要事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）	
司会	定刻（午前9時30分）により開会
坂野会長	<p>～会長あいさつ～</p> <p>～議事～</p> <p>○第1号 令和5年度第1回審議会にて選定した協働事業の第三者評価について</p>
坂野会長	<p><b>【緊急サポート事業】</b></p> <p>第1号について、事務局から説明願いたい。</p>
事務局	<p>1つ目の事業は、資料3-1「緊急サポート事業」で、担当部署は子育て支援課である。それでは、担当部署より改めて事業内容をご説明いただきたい。</p>
子育て支援課	<p>本事業は、NPO法人病児保育をつくる会に委託をしており、この法人は県内でも他市町村の事業を受託している。緊急性を伴う預かりを行うことにより、保護者の仕事と育児の両立を支援し、小学生までの児童を対象に病気、急な出張、保育施設での急な呼び出しがあった場合の送迎など、緊急性を伴う預かりを会員同士の相互の助け合いで行っている。昨年度の利用件数は5件であり、年間総額924,000円となった。今後の協働を続けていくために、団体とは話し合いを継続しているところではあるが、利用件数が少ない。その要因としては、コロナ禍であり、会員になっていたとしても利用を控える部分があったと考えられる。周知についても、さらなる周知が必要と考え、広報やチラシはもちろんのこと、SNSでも発信をしてきた。今後も利用件数が増加するよう取り組んでいきたい。</p>
坂野会長	<p>今の説明について、何かご意見、ご質問等はあるか。</p>
松村副会長	<p>コロナ禍で利用件数は少なくなっているが、コロナ禍でなければ利用件数は多いと考えて良いのか。具体的な周知方法について、保育園にポスターやチラシの配布、医療機関へ情報を提供するなどの取り組みはされてきたのか。</p>
子育て支援課	<p>過去の利用者数について、R3年度31件、R2年度17件、R1年度40件、平成30年度31件となっている。類似しているものには、ファミリーサポートセンターの利用があり日中の支援を行っている。R4年度2,040件、R3年度2,173件、R2年度1,818件となり、</p>

	<p>ファミリーサポートセンターの利用件数も減少している。コロナ禍の影響で、実際に塾や習い事などの活動が各々できなかつたということも影響していると考えられる。ファミリーサポートセンターは日中や定型的にできる支援、緊急サポート事業については、緊急的に利用できる支援として周知をしている。周知方法について、昨年度は保育園へのチラシ配布やSNSであるXでの周知を進めた。今年度については、コロナ禍が落ち着いたこともあり、ファミリーサポートセンターの提供会員と利用会員の交流の場である交流会での周知であったり、市内子育て支援センター利用者への周知を行ったりしているところである。委託団体と話し合い、保育園など様々なところに機会を捉えて周知を進めていきたい。</p>
松村副会長	<p>コロナ禍での利用対象世代と、現在の利用対象世代は異なっているので、新たに周知をするという形でやっていただきたい。</p>
菅原委員	<p>利用会員数が223名である。再度利用する会員は何名か。</p>
子育て支援課	<p>一部の会員である。</p>
木村委員	<p>登録をしなくても利用できるのか。</p>
子育て支援課	<p>基本的には会員登録手続きが必要ではあるが、緊急的に利用することはできる。</p>
米田委員	<p>利用の際に、利用会員と協力会員の打ち合わせや面談などは行うのか。</p>
子育て支援課	<p>利用者が委託団体へ電話での相談を行い、支援に入ることになる。緊急的な対応をするので書類の取り交わしなどは後日となる。</p>
大手委員	<p>協力会員の確保をするためには、どんな取り組みをしているのか。</p>
子育て支援課	<p>広報紙にて、協力会員になるための講習会の周知、その他チラシを作成し窓口での配布、機会を捉えて直接お声をかけさせていただいている。</p>
事務局	<p><b>【生涯現役の要請事業～世代を超えた交流による、元気シニア創生とまちづくり～】</b>  2つ目の事業は、資料3-2「生涯現役の要請事業～世代を超えた交流による、元気シニア創生とまちづくり～」で、担当部署は長寿支援課である。それでは、担当部署より改めて事業内容をご説明いただきたい。</p>

長寿支援課	<p>本事業は、NPO法人たすけあい・よしかわが実施しており、これまで地域社会と関わる機会が少なく地域デビューに結びついていない男性シニアや、これから退職時期を迎える男性シニアなどに向けた地域活動等への参加支援を実施することで、地域デビューへの不安を取り除くとともに地域活動等への参加促進を図ることを目的としている。</p> <p>シニア元気塾（グループ別活動）を実施しており、またシニア元気塾たまり場の運営を行い、参加者の自主的活動の支援、交流、情報交換を行っているところである。</p> <p>シニア元気塾のグループ別活動としては、①野菜作り、②高齢者福祉の増進（福祉有償運送事業）、③スポーツで子どもたちと交流、④吉川市歴史探訪・ウォーキング(R4年度は雨天中止)の4グループがあり、参加者数は延べ389名である。</p> <p>シニア元気塾たまり場の開催については、毎月第1・第3水曜日に平沼地区高齢者ふれあい広場において、参加者の自主的活動（笑いヨガ、歌声喫茶）の支援、シニアへの情報提供と相互交流の場作りを行い、参加者数は延べ208名となった。</p> <p>このような活動を通じて、一定の通いの場にもなり地域デビューとなるきっかけに寄与していると考えている。</p> <p>事前に質問があった事業費総額982,000円の内訳については、資料のとおりである。</p>
坂野会長	<p>今の説明について、何かご意見、ご質問等はあるか。</p>
廣瀬委員	<p>男性は女性に比較して、地域活動に関わろうとする傾向が低い。男性を地域へ引っ張り出そうとする方法とは何かあるのか。</p>
長寿支援課	<p>様々な場面でご案内、もしくは直接お声かけを丁寧に行っていきたいと考えているところである。</p>
金澤委員	<p>元気塾で実施している事業内容について、誰が決めているのか。</p>
長寿支援課	<p>基本的には、県の補助事業がきっかけに立ち上がった事業であり、委託先のNPO法人たすけあい・よしかわが実施したいということで、あがってきた事業内容である。</p>
米田委員	<p>これら事業のターゲット層とは。</p>

長寿支援課	<p>退職前の方をターゲットにするのは難しいが、バランスを見て幅広くご案内をしなくてはならないと考えている。</p> <p><b>【地域課題を地域で解決するための勉強会】</b></p>
事務局	<p>3つ目の事業は、資料3-3「地域課題を地域で解決するための勉強会」で、担当部署は市民参加推進課である。それでは、担当部署より改めて事業内容をご説明いただきたい。</p>
市民参加推進課	<p>本事業は、市自治連合会と市の共催事業である。実施団体である市自治連合会は、市内にある94自治会をもって組織されている。地域に住む人々が安心して暮らせる住みよい地域社会の実現を目的として、様々な地域課題の解決に向け、市民と行政との協働で研究を行い、活気と幸福実感あふれるまちを目指しているところである。</p> <p>実施内容について、①地域減災班②多文化共生班③自治会課題班の3つの分科会に分かれ、「地域課題を地域住民が解決するための事業」について研究・実施した。令和4年度の取り組みについて、多文化共生班では、自治会や生活の困りごと等に関するアンケート集計結果の報告や、「やさしい日本語でつながる」について講師を招き講話を開催した。自治会課題班では、「リビングラボ」について講師を招き講話を開催した。地域減災班では、昨年度は中曽根小学校区まちづくり協議会の立ち上げを行った。事業としては、先進地視察（埼玉県鶴ヶ島市）を行ったり、減災部会を中心に「中曽根小学校区まちづくり協議会減災プロジェクトX2022」を開催した。</p> <p>事業総額124,620円については、各班で開催した講演会の講師謝礼代になっている。</p>
坂野会長	<p>今の説明について、何かご意見、ご質問等はあるか。</p>
松村副会長	<p>本事業は何がゴールなのか。また、中曽根まちづくり協議会について、減災の問題意識はどのように生まれたのか。</p>
事務局	<p>地域の方が自分事のように議論することが大切であり、問題や課題を自ら見つけ、その解決方法を議論し、事業を実施していくことが大切であると考えている。</p>
木村委員	<p>過去の豪雨で避難所に399名が避難したことがあった。この出来事があったために、減災への取り組みの必要性を強く感じ、協議会が設立した経緯がある。</p>

松村副会長	減災の取り組みについては、危機管理課が担当なのではないか。
事務局	まちづくり協議会については自立的に立ち上がった団体ではあるが、立ち上げ後5年間について、事務局は市民参加推進課であるため関わっているところである。
廣瀬委員	障害者の方や外国人の方への周知も取り組んだうえで、より良い事業を展開していただきたい。
事務局	頂いたご意見を協議会へ伝え、次回の開催につなげていきたい。
	<b>○第2号 令和5年度 市民参画手続の進捗状況について</b>
坂野会長	第2号議案について、事務局から説明願いたい。
事務局	(別紙、資料1、資料1-1～2及び資料2を用いて説明) 事前に質問があった障害者計画の地域ヒアリング実施団体については、様々な障がいカバーするように、支援団体や当事者で構成される団体にヒアリングを行っているとしている。地域ヒアリングの実施については、各所管課の課長が市民参画手続実施責任者となっており、何が参画手続として必要なかを決定して実施しているところである。
坂野会長	事務局の説明に対し、質問・意見があればお願いしたい。  特になし。
坂野会長	以上で、すべての議題を終了する。ご協力いただきありがとうございました。
松村副会長	閉会の挨拶
	(午前11時25分終了)

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和5年12月21日

署名委員 大手 俊之

署名委員 金澤 美智子